

第1学年2組 国語科の実践

1. 単元名

おきにいりの のりもの の すかんとつくろう！ 「いろいろなふね」東京書籍1年下

2. 単元の目標

- ・主語と述語の関係や、説明のための基本的文型に注意して読むことができる。

【知識・技能】

- ・大事な言葉や文に着目して、書かれている内容や順序を読み取ることができる。

【思考・判断・表現】

- ・乗り物に興味をもって教材文を読んだり、好きな乗り物について図鑑で調べたりしようとする。

【主体的に学習に取り組む態度】

3. 学習活動について

(1) 児童について（省略）

(2) 単元について

本単元は、新学習指導要領国語科の内容C読むこと（1）「ア 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えること」、「ウ 文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと」をもとに設定した。

本単元では、好きな乗り物について調べ、調べたことをカードにまとめてクラスで1冊の「おきにいりの のりもの の すかんとつくろう」を作成する学習を設定した。本教材は、特徴的な機能をもった4つの船を例に取り上げ、「やく目」「つくり」「できること」に分けて説明した文章である。

「～は、～のためのふねです。」(やく目)、「～には、～や～があります。」「～は、～や～をつんでいます。」(つくり)、「～します。」(できること)とそれぞれの例示が同じ文型で説明されており、最初の読み取りを次の読み取りに活かせる、児童が大事な言葉を見つけやすい構成となっている。そのため読み取りが苦手な児童にとっても学習を進めていくことができるようになる。また、本学級には乗り物が好きな児童が多く、単元の最後まで興味をもって読み進めることができるようになる。

(3) 指導にあたって

【研究の視点(1) ①教材・学習課題と出会いの場の工夫】

本単元への興味・関心をもたせるために、単元の最後にはクラスで1冊の「おきにいのりもの の ずかん」を作成することを伝え学習を楽しみにする気持ちへとつなげる。できあがった図鑑は学校図書館に掲示し、来室した児童に見てもらうことを伝え学習への意欲をさらに高めたい。1学期にも「身を守る動物図鑑」や「おおきなかぶの本」を作っており、図鑑や本を作ることに興味のある児童が多く本単元の学習にも意欲的に取り組むと思われる。ただし、図鑑を作ることが本単元の目的ではなく「文章の中の大事な言葉を選び出す力を身に付けること」が目的であり、乗り物カード(本単元で活用するワークシート)を使い1年2組の乗り物図鑑を作成することで、児童の国語の力を育てていきたいと考える。

いつでも自分の好きな乗り物を調べられるよう、学級に乗り物に関連する本を置きいつでも読める環境をつくる。学校司書と連携し、「やく目」「つくり」「できること」が1年生にも見つけやすい本を選定してもらう。

また、乗り物カードを書くときの参考になるよう「乗り物読書カード」を用意しておき、いつでも記入できるようにしておく(図1)。記入する内容は、読んだ本の名前と気になった乗り物、ページ、図鑑に載せたいか(◎、○、△)である。この読書カードをきっかけとして、本が苦手な児童も本に触れることができるのではないかと考える。

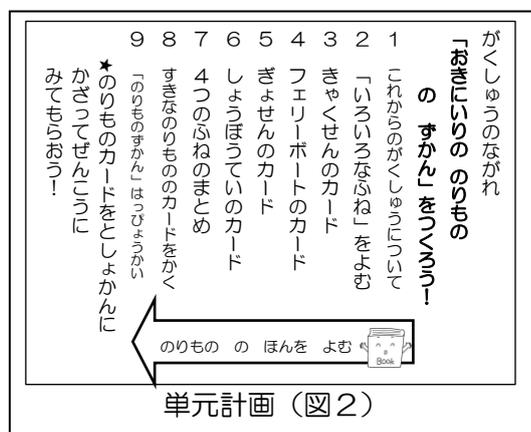


乗り物読書カード (図1)

【研究の視点(1) ②ねらいや学習課題・学習の流れの明確化】

本単元の導入場面で、単元の流れを児童に提示し学習の見通しをもたせる。学習の流れは、教室に掲示し、いつでも確認ができるようにする(図2)。できあがった船の学習カード(子どもの乗り物カードと同じ形式のものを拡大)を教室に掲示し次の授業で活用できるようにする。学習の流れや学んだことが書かれた乗り物カードを掲示することで学習の途中でも、今の学習が確認でき見通しをもって学習に取り組むことができる。

また、授業の中でキャラクターカードを活用し、本時の活動をわかりやすくする。読むこと「よむぞうさん」、書くこと「かくまさん」、話すこと「はにああす

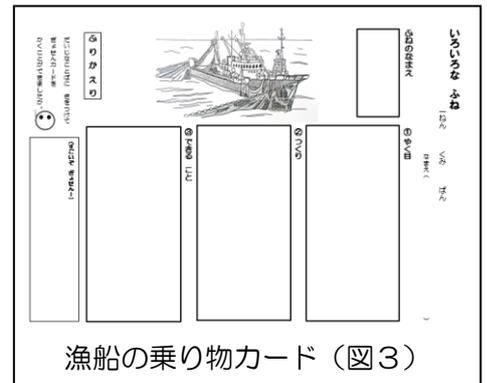


さん」、聞くこと「ききみみさん」、言葉に関すること「ことばあどさん」、考えること「かんがえるさん」を授業の中で活用することで、児童は活動の内容を視覚的に把握するとともに、親しみやすいキャラクターを使うことで活動を楽しみにする気持ちが生まれると考える。

【研究の視点（２） ①個人の思考を深める手立てや位置づけの工夫】
（ワークシートの活用）

本単元では、4つの船についてまとめていく場面でノートではなく、乗り物カードに読み取ったことをまとめていく（図3）。ノートでは、字数やレイアウトなど制限があるが、ワークシートでは、付箋を貼ったり、文字の大きさを変えたりすることができるので1年生の児童にとっても書くことへの抵抗が少なくなると思われる。

また、抜き出す大事な言葉や文は、「やく目」は赤、「つくり」は青、「できること」は黄色の付箋に書いていく。言葉だけの情報では、なかなか整理できない児童も付箋の色が分けてあることで整理がしやすいと考えた。



漁船の乗り物カード（図3）

（大事な言葉や文を見つけるための手立て）

読み取りの場面では、「やく目」は赤、「つくり」は青、「できること」は黄色のクーピーを使って、3色の線で囲む。付箋と同じ色になっているため大事な言葉や文をそれぞれの付箋に書くときに範囲が指定され抜き出しやすいと考える。

そして、教科書の色分けした部分から色付きの付箋に大事な言葉や文を抜き出しやすいよう、省く部分には鉛筆で線を引くように指導する。必要のない文と抜き出す文を区別するためである。（例：きゃくせんは、たくさんの人をはこぶためのふねです。）

それでも、十分に大事な言葉や文が見つけれない児童がいれば、前時の学習を生かすよう、客船カードと比べたり、同じ言葉のところに鉛筆で線を引いて文を省いたりする。大事な言葉や文を抜き出すときのポイントは確認するが、困っている児童がいれば、個別に“文末の丁寧な表現は消し、「います。」を「いる。」にするなど短い言葉でまとめる”等の具体的な声かけを行う。また、漁船や消防艇は、客船やフェリーボートとは「つくり」の表現（内容や文末）が異なるため、どこを抜き出せば良いか迷う児童がいることが予想される。その場合は、「何をつんでいるか」の表現に着目させ、大事な言葉や文を抜き出すよう声をかける。

（前時までの学習について）

4つの船について読み取っていく際、最初の学習に当たる客船での学習は2時間かけて行う。「やく目」や「つくり」、「できること」3つの構成になっていて、それをわかりやすくするためにクーピーを使って線を引くことを伝える。また、色のついた付箋に文をまとめる時、その後の学習（フェリーボート、漁船、消防艇）に生かせるよう、文末表現に気をつけて短い言葉でまとめるなどのポイントを丁寧に指導していく。

【研究の視点（２） ②思考や表現に結びつくような学習の場の工夫】
（乗り物カードの発表会）

児童が作った乗り物カードを4人グループで発表し合う場を設ける。友だちに自分の好きな

乗り物を知ってもらうために、学習した表現を活かしてまとめようとするなど、相手意識や目的意識をもつことで単元の最後まで意欲をもって学習に取り組むことができると考える。

（ペア学習）

本時の学習では、大事な言葉に気をつけて短い言葉にまとめることができるように授業の中でペア学習を取り入れる。友だちに自分の意見を話すことで、自分の考えを相談したり、確認したりできる。また、友だちに話すことで、自分の意見に自信をもつことができる。さらに、その学習の過程で、自分の意見が深まることも期待している。

ペアでの学習の際に、話し合いが進めやすいよう話型を提示する。この学習で使いやすいよう、普段使っているものとは変え書いたこととそのわけが話しやすく聞いている人が、話している人に質問したり、意見を言ったりできるようにした話型を作成する。また、ペア学習をして自分がまとめた文を直すときは、新しい付箋に書くようにする。ペア学習で考えがどう変わったかがわかるようにするためである。

（図書館での学習への支援）

付箋での学習を生かして、図書館でも色の付箋を使ってまとめる。「やく目」「つくり」「できること」の色付きの付箋を図鑑の近くにおいて書くことができ、また児童が読み取れていない項目がわかりやすくなる。児童が書いていない項目については必要に応じて「どこを読めば良いか」など同じ色の小さな付箋をつけたり、声をかけたりする。

【研究の視点（3） ①情報収集、整理分析場面でのタブレット端末の活用】

単元の最後の「おきにいの のりもの の ずかん」を作成する場面で、同じ本を複数の児童が選んだ場合は、選んだ乗り物のページをタブレットで撮影しそれをもとに乗り物カードを作成する。（使用した画像は最後には、消去する）

【教員のICT活用について】

① デジタル教科書

視覚的、聴覚的支援として毎時間の授業でデジタル教科書を活用する。内容理解のためにデジタル教科書の音読機能を使い本文を読み進める。自分で音読すると読むことに集中して内容理解が浅くなる。また、音声流れることにより教員は全体を見て、支援が必要な児童に寄り添い読んでいるところを指で差して支援をすることができる。

読み取りを深めるために、各授業の導入場面でデジタル教科書の動画再生機能を使い船の動画を見る。客船の内装やフェリーボート内の駐車場、魚群探知機、消防艇のポンプ・ホースなど、教科書の説明だけでは理解ができないものも動画を見ることによりわかりやすくなり、本時の読み取りに活かすことができると考えた。

② 実物投影機

児童が書いているものと同じ乗り物カードを前のスクリーンに映す時に、実物投影機を活用する。どこにどのように書くのかなど、口頭だけでは説明が伝わりにくい時に実物投影機があることで、視覚的支援になり、誰もが学習に取り組みやすくなる。

4. 本単元で身に付けたい力

目的に合わせて、大事な言葉や文を見つけながら読む力

5. キャリア教育の視点

自分の考えをみんなの前で話す（自己理解・自己管理能力）

6. 指導計画と評価計画（全12時間 本時6/12時）

| 次 | 時 | 主な学習活動 | 評価 | | | | |
|-----|-------------|--|------------------|-----------------|----|--|--|
| | | | 知識 技能 | 思・判・表 (読むこと) | 態度 | 主な評価規準（評価方法） | |
| I | 1 | <p>学習の見通しを立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本単元の流れを示す。（模造紙） ・本文を読み感想を書く。 ・完成した「乗り物カード」を児童に見せる。 ・乗り物読書カードに記入することを伝える。（並行読書） ・図書館へ「乗り物カード」を掲示することを伝える。 | | | ○ | 【態】乗り物についての文章を読んだり、好きな乗り物について調べたりする学習について興味をもって取り組んでいる。（行動観察・ノート） | |
| II | 2 | <p>「いろいろなふね」に出てくる船を整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全文を読み、文章の大体を捉える。 ・4つの船について整理する。 | 並 行 読 書 | ○ | ○ | <p>【読】どこにどんな船のことが書かれているか、内容の大体を読み取っている。（発言・ワークシート）</p> <p>【知】主語と述語の関係に注意して文章を読んでいる。（発言・ワークシート）</p> | |
| | 3 | 「きやくせん」について読み取った | | | | ○ | 【読】「きやくせん」の「役目」「つくり」「できること」を表す大事な言葉を見つけながら読み取り、客船カードにまとめている。（客船カード・行動観察） |
| | 4 | ことをカードにまとめる。 | | | | | |
| | 5 | 「フェリーボート」について読み取ったことをカードにまとめる。 | | | | ○ | 【読】「フェリーボート」の「役目」「つくり」「できること」を表す大事な言葉を見つけながら読み取り、フェリーボートカードにまとめている。（フェリーボートカード・行動観察） |
| | 6 本 時 | 「ぎよせん」について読み取ったことをカードにまとめる。 | | | | ○ | 【読】「ぎよせん」の「役目」「つくり」「できること」を表す大事な言葉を見つけながら読み取り、漁船カードにまとめている。（漁船カード・行動観察） |
| | 7 | 「しょうぼうてい」について読み取ったことをカードにまとめる。 | | | | ○ | 【読】「しょうぼうてい」の「役目」「つくり」「できること」を表す大事な言葉を見つけながら読み取り、大事な言葉に気をつけながらまとめることができる。（消防艇カード） |
| | 8 | 4つの船について読み取ったことをまとめる。 | | | | ○ | 【読】4つの船がそれぞれの役目に合うように作られていることを読み取っている。（発言・まとめのワークシート） |
| III | 9 | 本を読んで好きな乗り物について調べ、カードにまとめる。 | | | ○ | ○ | 【態】乗り物に興味を持って本を読み、「のりものカード」を進んで作ろうとしている。（行動観察・乗り物カード） |
| | 10 | <ul style="list-style-type: none"> ・調べたい乗り物の本を読む。 ・付箋を使って3つの観点に分け整理し、乗り物カードにまとめる。 | | | | | 【読】大事な言葉を見つけながら、乗り物について書かれた本を読み、乗り物の特徴がわかるように乗り物カードにまとめている。（行動観察・乗り物カード） |
| | 11 | | | | | | |
| IV | 12 | <p>乗り物カードを4人グループで読み合い、感想を交流し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が調べた乗り物を学級のみなやかに発表する。 ・友だちの乗り物図鑑の感想を付箋に書き感想交流を行う。 | | | ○ | 【態】友だちの発表をしっかりと聞いて、友だちに感想を伝えている。（感想付箋・乗り物カード・行動観察） | |

| | |
|----|--|
| 課外 | ※できあがった「乗り物カード」を学校図書館に掲示し全校児童に見てもらう。(1・2組交互に図書館に掲示) 掲示後、乗り物カードを一つにして1年1組・2組の乗り物図鑑を作成し学校図書館に寄贈し、来年度の授業に役立ててもらう。 |
|----|--|

7. 本時の学習

(1) 目標

漁船の「やく目」や「つくり」、「できること」について、大事な言葉や文を見つけながら読み取り、カードにまとめることができる。

| | 学習活動と予想される児童の反応 | 教師の支援 (○)・評価 (□) ICT活用 |
|---------|---|--|
| つかむ | 1. 本時の流れを確認する。 2. めあての確認をする。 | ○授業の見通しをもつために、本時の流れを提示する。 |
| 考える | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> だいじなことばに きをつけて ぎょせんカード を かこう </div> | |
| 広げる・深める | 3. 教科書41ページを読む。 <ul style="list-style-type: none"> デジタル教科書の範読を聞く。 全員で声をあわせて読む。(自分たちだけで) 教科書を読み、分からないことや見たことがないものを確認する。※必要に応じて漁船の画像を見る。 | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 〔デジタル教科書〕 <ul style="list-style-type: none"> 児童の音読の様子の把握や個別の支援を行うために、デジタル教科書に範読させる。 児童の必要感に応じて漁船の装備の確認のために、動画再生機能の動画を使用して作った、画像を見せる。(必要がなければ使用しない) 児童がどこを学習しているかわかりやすいように、学習中はスクリーンに本文や漁船の画像を映 </div> |
| まとめる | 4. 「やく目」、「つくり」、「できること」が書いてあるところを見つけ、クーピーで囲む。 <ul style="list-style-type: none"> 個人で線をひいた後、段落を全体で確認する。 | ○3つの観点がすぐわかるように、「やく目」は赤、「つくり」は青、「できること」は黄色に分けて線を引かせる。 ○どこに線を引いてよいかわからない児童には前回までの線の引き方を確認するように声をかける。 |
| ふりかえる | 5. 大きな付箋に、「やく目」、「つくり」、「できること」を短い言葉でまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> 使わない言葉や文に個人で線を引く。 個人で3つに分けて書く。 | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 〔実物投影機〕 どこに線を引いたかが全体で共有できるように、教科書に引いた線をスクリーンに映す。 </div> |
| | 6. ペアで3つの内容の確認をする。 <ul style="list-style-type: none"> 自分と違うところや気になるところについて質問したり、意見を言ったりする。 付箋をワークシートに貼る。 | ○ペアでの学習が進めやすいように、ペア学習の話型を提示し、その話型を参考にして話し合いを進めるように声掛けをする。 ○黒板に漁船の「やく目」「つくり」「できること」を書き、児童が内容を確認できるようにする。 |
| | 7. ペア学習での話し合いを全体で共有し、本時の学習のまとめをする。 | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 〔実物投影機〕 全体で内容を確認できるよう、児童の乗り物カードをスクリーンに映す。 </div> |
| | 8. 本時を振り返る。 <ul style="list-style-type: none"> 本時の振り返りとして、漁船カードのふりかえりの顔に色をかく。 | 【読むこと】 「ぎょせん」の「役目」「つくり」「できること」を表す大事な言葉や文を見つけながら読み取り、大事な言葉や文に気をつけながらまとめることができる。(発言・漁船カード) |

(3) 評価

| | | | |
|------|---|---|--|
| | 十分満足と思われる児童の姿 | おおむね満足と思われる児童の姿 | 支援が必要と思われる児童への手立て |
| 読むこと | 漁船の「役目」「つくり」「できること」を表す大事な言葉を見つけ出し、その根拠を説明したり、漁船カードにまとめたりしている。 | 漁船の「役目」「つくり」「できること」を表す大事な言葉を見つけ出し、漁船カードにまとめている。 | 前時までの乗り物カードを見せ、漁船カードに書く大事な言葉や文末表現について助言する。 |

(4) 研究の視点

省く部分に線を引いたり、ペアで話し合う場をもったりしたことは、大事な言葉や文を見つけ付箋にまとめるために有効であったか。

(5) 板書計画

8. 指導の実際と考察

(1) 教材・学習課題との出会いの場の工夫 研究の視点(1) - ①

本単元への興味・関心を高めるために、「おきにいのりものずかん」を作成することとした。学習の最後に、自分の好きな乗り物を調べて図鑑をつくることで、それを楽しみに授業が進んでいく。できあがった図鑑は、全校のみんなに見てもらうことで更に学習への意欲が高まると考えた。実際に、休み時間も一生懸命乗り物について調べていた子どもの姿が多くあった(図1)。自分が好きな乗り物の図鑑を作ることを目標に、楽しく意欲をもって取り組んでおり、児童にあった学習課題を設定することができたのではないかと考える。

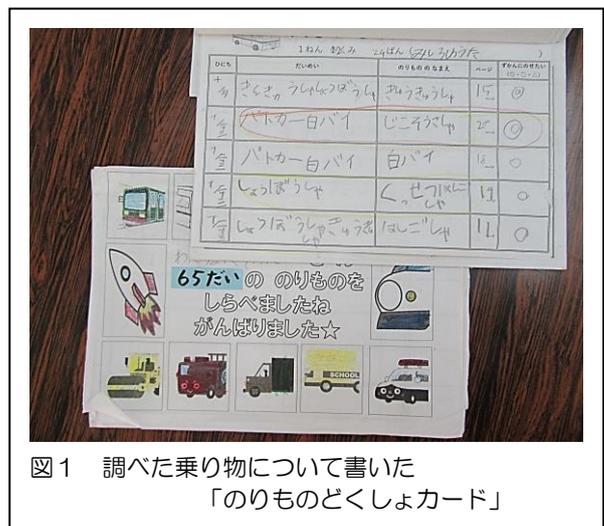


図1 調べた乗り物について書いた「のりものどくしょカード」

自分の好きな乗り物を調べられるように学級に乗り物の本、図鑑を置き、いつでも読める環境を整えた。(図2) また、調べた乗り物は「のりものどくしょカード」に記録し、読んだ本の内容をいつでも確認できるようにした。児童は意欲的に乗り物を調べ、50種類以上の車を調べている者もいた。第4次12時の授業の振り返りの中で「ふだんは、こんな本は読まないけど、読んでみたらおもしろかったです。」「乗り物の本も読んでみると楽しかったです。」と新しい本との出会いを喜んでいる児童がいたことはこの学習の成果だと思う。



図2 乗り物に関する本の掲示(一部)

(2) 個人思考を深める手立てや位置づけの工夫 研究の視点(2) - ①
(教科書の読み取り)

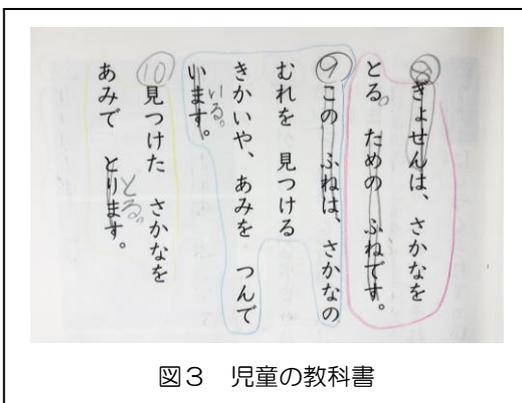


図3 児童の教科書

本単元で身に付けたい力は、「目的に合わせ、大事な言葉や文を見つけながら読む力」であることから、教科書から大事な言葉や文を見つけ出す際に、教科書に直接書き込む活動を取り入れた。まず、「やく目」、「つくり」、「できること」を区別しやすいように、3色のクーピーをつかって色分けして囲んだ(図3)。次に、省く部分には取り消し線を引き(きやくせんは、たくさんの人をはこぶためのふねです。)、短い言葉でまとめるところは、文末表現を変え、新しい表現を書き込んだりした。(ことができます できる。)

この活動を行ったことにより、子どもが必要のない文と大事な言葉や文を区別することが容易になった。教科書に取り消し線を引いたり、文末表現を変えたりすることで簡潔な文になり、大事な言葉を見つけやすくなった。研究協議で「この活動は、今後の説明文の読み取りに生かせる。」という意見もあり、読み取りの手段として有効であったのではないかと考える。付箋に書き抜くための手立てとして、スモールステップになっており、低学年にとっては取り組みやすかったと考える。

(ワークシート・色付き付箋の活用)

教科書での読み取りを生かして抜き出した大事な言葉や文を、ワークシート整理しやすいように3色の付箋に分けて書き出す活動を行った。また、今後ICT機器を活用する際に、思考をグルーピングするなどの操作をする場面で生かせると考え、その前段階の活動として付箋紙の活用を取り入れた。「やく目」は赤色、「つくり」は青色、「できること」は黄色と教科書で範囲指定したものと同じ色の付箋に書くことで、児童は思考を整理しやすくなり、



図4 付箋をワークシートに貼った漁船カード

付箋紙にまとめることができた。書いた付箋はワークシートに貼り、漁船カードとしてまとめた（図4）。ワークシートは、4つの船の学習で使用し、今までの学習の軌跡が残るように「いろいろなふねずかん」として1つのものにまとめて保管した。

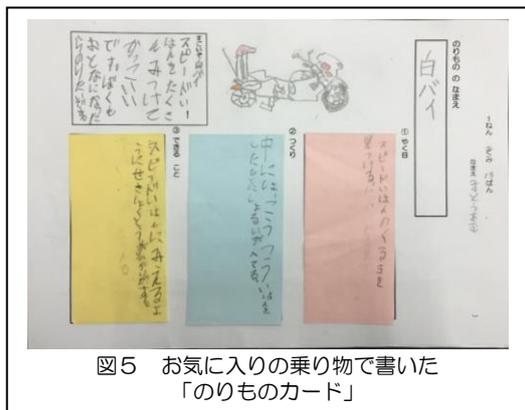


図5 お気に入りの乗り物で書いた「のりものカード」

その後「おきにいのりものずかん」を作成した。本時と同様に、文章を省いたり、短い言葉でまとめたりしながら、「やく目」「つくり」「できること」を3色の付箋に書き込み、1人1枚のお気に入りの乗り物の「のりものカード」を作成した（図5）。「のりものどくしょカード」を書いていたので、好きな乗り物をすぐに選んで、「のりものカード」を作成することができた。作成したものは、みんなに発表し、みんなのカードの良いところをたくさん見つ

けた。また、廊下にも掲示し、保護者や全校児童にも見てもらった。

(3) 思いや考えを表現する場の工夫（思考過程の共有化）研究の視点（2）－ ②

（ペア学習）

大事な言葉や文に気をつけて短い文にまとめる際に、自分の意見を他者に伝えることで考えが深まることを期待し、ペア学習を取り入れた。（図6）本時の学習では、自分の考えの紹介になってしまい、話し合いが深まるペアが少なかった。なぜそこを抜き出したのかの理由や説明が浅く、深い話し合いにはなっていなかった。省いたところや短くまとめた言葉の確認で終わってしまっていた。



図6 ペア学習の様子

【本時のペアでの話し合い】
 C1：船の名前はいらないから消した。
 C1：「船の中は」は、船の中ってことはわかっているから消したよ。
 C2：（うなずく）
 C2：何をするって聞いているから、「さかなをあみでとる。」にした。
 C2：短くするからここを消した。
 C1：全く一緒。

く、深い話し合いにはなっていなかった。省いたところや短くまとめた言葉の確認で終わってしまっていた。話し合いの見本として「話し合いの手引き」を用意したが、1年生の児童には難しく、お手本となる話し合いを動画で撮影して、それを見本として見せたほうが有効ではなかったかと反省している。児童の発達段階にあった話し合いができるように、これから実践を重ねていきたいと思う。

(4) 学習の効果を高めるためのICT活用 研究の視点（3）

（デジタル教科書）

視覚的、聴覚的支援として毎時間の授業の中でデジタル教科書を使用した。

内容理解のためにデジタル教科書の読み上げ機能を使い、本文を読み進めていった。デジタル教科書が範読することで、自分で読むよりも内容がよくわかり、本文の内容理解につながるのではないかと考えたからだ。実際に、自分で読むと文字一字一字を読むことに一生懸命になってしまいう児童も多くいる。「パソコンが読んでくれるとわかりやすいね。」「一回読んでくれると読みやすい。」という子どもの声もあった。また、範読については、教師が読むことも大切だと考えるが、教師が読むとその間の児童の様子が把握しにくい。しかし、デジタル教科書を使って読み

上げると、その間の児童の様子が把握でき、個別に支援が必要な児童がいれば、そばに寄り添い一緒に読み進めることができる。(図7) このことから、デジタル教科書の読み上げ機能は有効であると考えられる。

また、デジタル教科書の動画再生機能の動画を編集し、画像資料としていくつか用意した。教科書には漁船の写真しかないが、魚群探知機や獲った大量の魚の写真を見せたことで、「すごい機械があるね!」「わ～。魚がたくさん獲れている。」など漁船のつくりや役目について、文章と関係づけて理解することができた。教材文の情報だけではわからない、船の中の様子や機能がわかり、本文の読み取りに生かすことができた。



(実物投影機)

児童の手元と同じものをスクリーンに投影し、どこに何を書くのか、今何をしているのかがわかりやすいような視覚的支援を行った。スクリーンに注目を集めることで、何をするのか、しているのかがわかり、誰もが活動に取り組みやすくなった。

本時では、3色で囲んだ場所を確認するために、前に出て実際に書き込みをさせた。(図8) その後も、自分の考えと比較させるために、ワークシートに書き込んだものや付箋などを児童が前に出て映

した。手元を大きく写したり、ワークシート・付箋を写したり、実際に書き込んでいる様子を映したりすることができるので、とてもわかりやすい支援となった。

また、実物投影機を使って発表する際には、必ず友達の方へ顔と体を向けて発表できるよう、実物投影機の向きを工夫している。いつでも他者を意識して発表ができるよう、これからの素地を養うためである。

(成果と今後の課題)

今回の実践で、デジタル教科書や実物投影機を効果的に使うことで、児童の学習意欲を高め、取り組みやすく、分かりやすい学習の場を設定することができた。また、教科書への書き込み、付箋を使い思考過程を可視化するなど情報活用の方法を工夫し、ICTとうまく組み合わせて授業が展開できたのではないかと考える。

しかし、本単元でつきたいのは、「目的に合わせ、大事な言葉や文を見つけながら読む力」であり、その目的が十分達成された授業とは言えない。特に、ペア学習では、話し合いの深まりが弱く、確認作業になっていたのが残念だった。どうして、言葉を省いたのか、短くまとめたのか話し合いが活発になるように授業展開や話し合いの持ち方を工夫すべきであった。

今後は、学習のねらいをはっきりさせ、ペアでの話し合いが活発になるような学習展開をしたい。そのために、国語科について更に研修を重ね、実践をしていきたいと思う。